

神戸大新学長に藤澤氏

「産業・行政と共創進める」

会見で抱負

神戸大（神戸市灘区）は25日、任期満了となる武田廣学長（71）の後任の第15代学長に、医学研究科長の藤澤正人氏（60）＝腎泌尿器科学＝を選んだと発表した。任期は2021年4月1日から4年間。藤澤氏は、同大医学部（同市中央区）で会見し、「大学は卓越した教育で人材を育成する使命がある。裾野の広い総合大学として、自然科学系、人文科学系のバランスの良い共生を目指す」と抱負を述べた。

藤澤氏は兵庫県市川町出身で、神戸大大学院医学研究科を修了。2005年に大学院医学系研究科教授になり、同大医学部付属病院長や学長補佐を歴任した。19年に医学研究科長に就任した。

ロボット手術の国内におけるパイオニアで、多くの共同研究に携わってきた。川崎重工業とシスメックスが折半出資で設立した医療

今回の学長選 透明性重視

投票結果、初めて外部公開

神戸大の新学長に医学研究科長の藤澤正人氏が選ばれた。学長などの選考を巡っては、東京大や筑波大で



会見で抱負を語る藤澤正人氏＝神戸市中央区楠町7、神戸大医学部

透明性や公平性が問題とされた。神戸大は投票結果を初めて学外にも公表するなど透明性を重視した。

今秋、東京大の総長選では、候補者の選考過程に疑義がある一との指摘が学内で上がった。筑波大でも、選考方法の公平性に批判が出るなど混乱が生じた。

神戸大は2004年の法人化を機に候補者の所信表明の場を新たに設け、学内に限っていた候補対象者を学外にも広げて選考方法を変更。学外の有識者を含む

け、今月発売された。12月には初めて実際の手術に活用される。

会見で藤澤氏は、今後取り組みたいこととして、地元産業や行政、近隣大学、海外との連携▽若手・女性研究者の支援▽外部資金の増加などを列挙。その上で「特に研究面で神戸市や兵庫県の産業・行政との連携を強くし、共創事業をしっかりと進めたい」、「（学生が）研究職として頑張ろうとなったときに、安心して打ち込める環境をつくりたい」と語った。

学長選考会議も設置した。今回の学長選は5月に日程などを公示。7月には藤澤氏と総括副学長の水谷文俊氏（63）の2人が候補に名乗り出た。同大は所信表明のビデオを学内限定で公開し、候補者への質問を募って回答を公表した。

11月20日に、投票権のある教職員ら2019人のうち1808人が投票。有効投票数は1792票で、藤澤氏が1081票を獲得し、水谷氏の得票は711票だった。学内外各9人で構成する学長選考会議が藤澤氏に決定。結果をホーム

ページで外部にも公開した。

これまで神戸大の学長は法、経営、発達科学部など六甲台地区（神戸市灘区）の学部出身者が大半。医学部（同市中央区）の教授の就任は、01年2月まで務めた故西塚泰美氏以来20年ぶりで、3人目となる。

（斉藤絵美、宮本万里子）

（第3種郵便物認可）